No.142号　2023年（令和５年）１月１日発行

びわこ学園だより

発行責任者　理事長　山﨑 正策
編集責任者　法人事務局　田處 浩壱
印　　刷　近江印刷株式会社

●目　次●

新年のご挨拶
（びわこ学園理事長　山﨑正策）…… 1P
二十歳おめでとうございます …… 2～3P
スタッフhistory④
（勤続25年を迎えられた職員編）…… 4～5P
施設等Topics① …… 6～7P
施設等Topics② …… 8P
施設等Topics③ …… 9P
施設等Topics④ …… 10P
びわこ学園実践研究発表会報告 …… 11P
ご協力ありがとうございます
（R4年8月～R4年11月）…… 12P

新年あけましておめでとうございます

社会福祉法人びわこ学園理事長　**山﨑　正策**

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和５年の新春を健やかにお迎えになられたこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今年はびわこ学園創立60年を迎える年となります。

「この子らを世の光に」という大変大きな理念を掲げながら、糸賀一雄先生や岡崎英彦先生の思いを受け継ぎ、実践という形での療育活動を長年繰り広げてきました。

もともとは近江学園に入所されている純真な心の持ち主である知的障害児から、その育ちと社会的人間の正しい姿を学ぼうとされていたようですが、次第に受け止める障害の程度が重くなり、当時は支援も乏しかった重症心身障害児を受け止めるにあたり、彼らとの信頼関係をしっかり築くことで、彼らの発達を少しでも促していこうと考えられるようになりました。そして彼らの発達を促していくことこそが、すべての子どもの発達を正しく支援することにつながり、正しい社会を作っていくことを熱望されていたのではないかと思います。

しかし、重症心身障害児と信頼関係を築き、彼らの発達を促していくということは、並みたいていの事ではなく、方法論さえも築かれていませんでした。

当時の岡崎先生は以下の様に言っておられました。

「現在の学問や技術だけではどうすることもできないほどの障害を根に持っている子どもを前にして、私たちはやはり、赤裸々な人間として、一つのいのちとして相対する以外にすべがないように感じます。この子どもたちも他の子どもたちと同様に全力で生きているのです。私たちも私たちなりに、全力で相対する努力なくしては、その子どもたちについていけないものを感じております。そのふれあいの中で感じとられたものが、この仕事の意味であろうと思われます。」

これを受けて、びわこ学園では実践というかたちでの療育方法を築いていったのだと思います。

重症児を中心に据え、彼らのことをしっかり理解することで、必要な療育を考えてきました。時には職員が先走って一方的な療育支援を実施してしまうこともあり、「本人さんはどう思っているのか」という大切な注意を発しておられました。

それから五十数年、重症心身障害を持つ方々の様子も大きく変わりました。施設を利用されている方々の医療支援度が増し、一方では在宅で生活される方々も増え、様々な医療や個別支援が必要になってきています。

そのような大きな変化の下で、我々は改めて障害児者支援の原点に立ち戻り、人間社会における共生の意義を、障害児者から学び続けていきたいと思っております。

皆様方のさらなるご理解とご支援よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人
びわこ学園

法人事務局	TEL 077-587-1144	〒520-2321	野洲市北桜978-2
びわこ学園医療福祉センター草津	TEL 077-566-0701	〒525-0072	草津市笠山八丁目3-113
びわこ学園医療福祉センター野洲	TEL 077-587-1144	〒520-2321	野洲市北桜978-2
知的障害児者地域生活支援センター	TEL 077-527-0494	〒520-0802	大津市馬場二丁目13-50
びわこ学園障害者支援センター	TEL 077-585-8040	〒524-0014	守山市石田町707
びわこ学園長浜診療所	TEL 0749-53-2771	〒526-0845	長浜市小堀町122番1